



特集

地域の医療を支える — 荘内病院

©問合せ 荘内病院総務課 ☎26-5111内線6333

大正2年に設立され、100年以上にわたって、南庄内地域に医療を提供している荘内病院。平成15年に現在地に移転新築し、15年目を迎えました。診療科は25科、病床は人間ドックの10床を含め521床ある総合病院です。

緊急・重症な患者への入院や手術などの急性期医療を中心に、救急・災害医療やがん医療など幅広い医療を行い、また、各病院、地区医師会、診療所等と連携して地域全体の医療の充実を図ってきました。

医療は、安全に安心して住むことができるまちを作るために欠かせないものであり、地域が発展していくための重要な社会基盤の一つでもあります。今回の特集では、地域医療の拠点病院としての特色ある事業や診療科での取り組みを紹介します。

荘内病院はこれからも、職員の資質向上を図りながら、高度で良質な医療と心のこもったサービスを提供していくことで、地域医療を支えていきます。

1

救急・災害医療で

地域を守る

けがや急な病気のと看、すぐに治療を受けられるのは、地域で安心して暮らしていくためにとて大切なことです。救急告示病院の荘内病院・鶴岡協立病院・三井病院と、休日夜間診療所、消防は連

携協力しながら救急医療体制を整備しています。荘内病院では休日夜間診療所と役割分担し、特に症状の重い患者を受け入れています。また、県の災害拠点病院に指定され、災害時には地域の医療・救護活動の拠点になります。建物は大地震でも機能が停止しない免震構造。屋上にはヘリポートが設置されていて、傷病者の受入れや搬出を行います。そして、専門的な訓練を受けた医師・看護師等で構成されるDMAT(ディーマット)と呼ばれる医療チームが2組編成されていて、要請に応じ、災害現場に出動して医療活動を行っています。

患者さんを迅速に治療へつなげる

救急車で運ばれて来た方はもちろん、自力で来院された方の中からも緊急度を判断し治療につなぎます。限られた時間の中で、患者さんとご家族が必要としていることは何かを常に考えながら看護に当たっています。



救急看護認定看護師
宮崎 隆寛

荘内病院救急センター

一刻を争う患者を守るため、医師・看護師などのスタッフが、24時間365日いつでも受入れできる体制を築いています。

救急外来患者数

平成29年度

1万6,441人

(平均45人/日)

救急搬送の受入れは地域全体の搬送数の8割を超える4,352人を数えました。



生体肝移植のため関東の病院へ広域搬送する訓練の様子

2

血管の中からも治療

脳神経外科

庄内地方で唯一、脳血管内治療専門医が常駐しています。習熟した専門医がいることで、脳動脈瘤や脳梗塞を、開頭しないで血管にカテーテルという管を入れて治療することができます。



副院長兼脳神経外科主任医長
佐藤 和彦

脳卒中は発症した脳の部位などによって、開頭手術と脳血管内治療のどちらが適切かは異なります。ですから両方できるこ

とが重要です。最適な治療を選ぶことで、入院期間を短くしたり、ADL(日常生活に必要な動作)の低下を最少限に抑えたりすることができます。社会復帰の時期を早めることが期待できます。治療は時間との勝負です。まひや突然の強い頭痛があったら、迷わず救急車を呼んでください。

予防もとても大切です。一番はたばこを吸わないこと。次は血圧を管理することです。高血圧はほとんど自覚症状がありませんが、ある日突然、脳出血を起こすことがあります。必ず医療機関を受診して治療してください。

3

質の高いがん医療を

提供する

乳腺専門外来の開設

乳がんの治療方法は、非常に高度化かつ専門化しています。患者のニーズも多様化しているため、より専門的な視点で治療に当たる乳腺専門外来を開設しています。



最新機器で高度な診療

がん治療は、手術、化学療法、放射線治療が三本柱とされていますが、近年高齢のがん患者が増加しているため、体への負担が少ない放射線治療の需要が高まっています。そこで平成29年に放射線治療装置「ライナック」を更新。最新機器が整備されたことで、腫瘍の位置を高精度に把握し、副作用を抑えた治療を、より安全に短時間で行うことができるようになりました。今後も計画的に整備を進めていく予定です。

体と心の変化に寄り添います

患者さんご家族に満足いただけるよう、専門医による治療のほか、がん化学療法看護認定看護師や緩和ケア認定看護師等とチームを組み、外来受診から、入院そして退院後の外来通院まで一貫した治療やケアを提供できる体制を整えています。



乳がん看護認定看護師
竹内 梨紗

4

チーム医療で

患者を支える

一人の患者に、医師・看護師・理学療法士等の複数の医療専門職が連携して治療やケアに当たる「チーム医療」。メンバーがそれぞれの専門性を発揮し、一人ひとりに合わせて療養をサポートしています。様々な分野・領域で推進していますが、その中から2つのチームの活動を紹介します。

認知症ケアチーム

入院患者の高齢化が進み、65歳以上の方は全体の65%を超えています。治療する病気やけがのほか、認知症を抱える方も増え、中には治療や入院生活に支障が生じる方もいます。また、家族がどう対処すればよいか分からなくなってしまうこともあります。このような状況を改善し、入院生活を快適に過ごすことができるよう、チームで患者と家族を支援しています。希望により、退院後1か月間、地域の介護関係者と連携し、住み慣れた地域での生活にスムーズに移行できるように訪問もしています。

緩和ケアチーム

「緩和ケア」とは、患者さんの痛みなど身体の苦痛や気持ちのつらさ、また第二の患者とも言われるご家族のつらさを和らげる支援のことです。痛みを専門に治療するペインクリニクの麻酔科医と連携して治療に当たり、医療費や介護の悩みを含む様々な相談にも応じます。生命を脅かす病と診断されたときから、病気の段階にかかわらず、また、がんだけではなく、慢性心不全などの患者さんや家族の支援も行っています。そして、地域のかかりつけ医等の医療・介護従事者と連携し、患者さんが自宅などの望む場所まで過ごせるように支援しています。



内科医長
和泉 典子

5

24時間新生児を見守る 地域周産期母子医療センター



妊娠満22週から出生後満7日目までを周産期といい、母子ともに異常が発生しやすくなります。この時期には、お母さんのための産科と赤ちゃんのための小児科の両方の医療が必要です。荘内病院はこの2つの科を備えていて、出産に関する高度な医療と24時間体制の新生児医療を行うことができる「地域周産期母子医療センター」がある病院として、庄内で唯一認定されています。

センターには疾患のある新生児を集中的に治療する新生児特定集中治療室（NICU）が6床、NICUで急性期を乗り越えた赤ちゃん

ちゃんを引き続きケアする新生児回復治療室（GCU）が6床あり、庄内だけではなく、県内外から未熟児が生まれそうなお母さんや、緊急処置が必要な赤ちゃんを受け入れています。

赤ちゃんご家族のための優しいケア

ここで対応するのは体重が1,000g未満の超低出生体重児や、肺や心臓の機能が悪い等で緊急に治療が必要な新生児など様々な状態の赤ちゃんです。小児科医・小児外科医と一緒に24時間見守り、緊急事態にも素早く対応できるよう備えています。



新生児集中ケア認定看護師
和田 美枝

地域に健康を届け、地域の声を聞く

市民の皆さんに地域医療や健康維持に関心を持ってもらえるよう実施している取り組みを紹介します。

荘内病院の医療を知りたい方へ

様々な専門家の話を聞きたい方へ

人生のエンディングを考えたい方へ

ドクター出前講座

荘内病院の医師が地域に出張して、町内会等の団体に対してがん予防講話や救急外来を受ける際の注意点等を分かりやすく紹介する寸劇、車座フリートークなどを実施します。地域医療の現状を伝え、様々な医療に関する質問に答えます。

☎同院地域医療連携室 ☎26-5155

つるおか健康塾

荘内病院・地域の医師や看護師等が医療や緩和ケアについて分かりやすく説明する講演会を年間5回程度実施。市民の皆さんの関心が高い内容を取り入れ、今から実践できる健康情報をお届けします。

☎同院 ☎同院内緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川 ☎26-5180 他次回開催については本紙14ページ

緩和ケア出張講演会

荘内病院の医師・相談員・様々な医療関係者が協力し、緩和ケアを知り、自分らしい人生の最期を考えるきっかけを作るための講演をコミュニティセンター等で行っています。自分の人生で大事にしたいことについて身近な人と話し合う大切さを、寸劇を交えながら伝えています。

☎同院内緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川 ☎26-5180

☆詳細は荘内病院ホームページ (<https://www.shonai-hos.jp>) をご覧ください